



Weekly Market Report

May 29, 2017

FX, JPY Interest Rate, Topi

1. 為替相場概況

今週は米雇用統計等の重要指標を控え、様子見ムードか

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

先週の米ドル円相場は111～112円前後でのレンジ相場となった。

(出所) Bloomberg

週初はロシアゲート疑惑の長期化及び英マンチェスターでの爆破事件が投資家心理を悪化させ、安全資産とされる円が買われる展開。

週半ばには原油相場上昇の安心感や、米長期金利の上昇によって米ドルが買われる局面もあったが、FOMC議事録で「6月利上げには景気減速が一過性なものであるとの証拠を待つことが賢明」との慎重姿勢が伝わり、米ドルが売られる場面も。週末には米国の祝日を前にしたポジション調整や、ブロード・セントルイス連銀総裁のハト派寄りの発言（FOMCの想定金利は積極的過ぎる可能性）等が米ドル売りに繋がった。

今週はISM製造業景況指数や雇用統計など、米国発の重要なイベントが相次ぐ。特に、雇用統計が大きく悪化するようであれば、ほぼ確実視されている6月利上げムードに冷や水を浴びせることになるため要警戒である。

(市場営業部/高橋(敦))

今週の経済指標 (予定)

| 日付 | イベント | 予想 |
|---------|-------------------|------|
| 5/30(火) | (米国) メモリアルデーによる休場 | |
| 5/30(火) | (米国) PCEコア (前年比) | 1.5% |
| 5/31(水) | (欧州) 予想CPI (前年比) | 1.5% |
| 6/1(木) | (米国) ISM製造業景況指数 | 54.6 |
| 6/2(金) | (米国) 雇用統計 | |

USD/JPY (2年間)



今週のレンジ予想 (USD/JPY)

| 予想者 | 今週のレンジ | 予想のポイント |
|------|-----------------|---|
| 國井靖子 | 110.00 - 113.00 | 米雇用統計に注目も、6月利上げは織り込み済みのためドル高は限定的か。ユーロの動向に注意。 |
| 川合隆行 | 110.00 - 113.00 | 6月の利上げ期待は依然高く、今週発表される米経済指標の数値良好であればドル買いが優勢となる可能性あり。 |

2. 円金利相場概況

米政権への不透明感からリスクオフムードであり、金利は低水準で推移か。

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



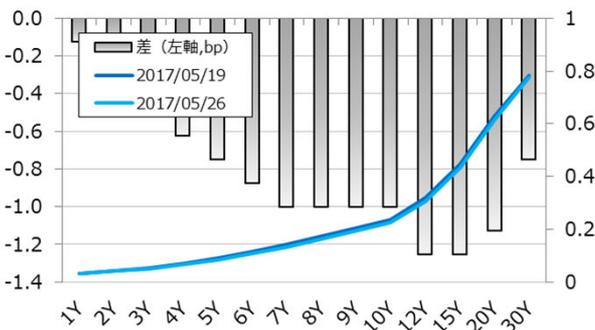
コメント

(出所) Bloomberg

先週の長期金利は、ロシアゲート疑惑に伴う米政権への先行き不透明感が残り、0.035%～0.058%と低く狭いレンジで、動意に乏しい展開となった。週明け22日はF R B高官が、年内に2回の利上げとバランスシート縮小が適切と述べたこともあり、米債券利回りは上昇。米株式相場も続伸し米経済の好調を背景に国内の株高・円安圧力も高まったことから、債券が売られ国内長期金利は0.05%台まで上昇。25日の40年債の入札は低調な落札結果で終了するも、F O M Cの議事録内容の影響から米国経済への警戒感が高まり、リスクオフによる米債が買われたことにも引きずられ金利は下落し、0.04%台で越えた。今週の長期金利は、米経済動向や米政権への不安感からリスクオフムードとなり、動意の乏しい週となると予想される。
(市場営業部/川合)

金利スワップ変化（1週間）

(%)



5年円金利スワップ推移（2年間）

(%)



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

| 予想者 | 今週のレンジ | 予想のポイント |
|--------|---------------|---|
| 伊藤功一郎 | 0.01% - 0.06% | 今週中に6月の日銀国債買入オペ運営方針の公表あり大きな変更無く、好需給環境は継続され金利は上昇し辛い展開。 |
| 伊豆浦有里恵 | 0.02% - 0.05% | 米政権混迷で債券は買われ易い地合いも、今週は経済指標や雇用統計を見極める姿勢強まり、金利は膠着状態か。 |

3. 今週のトピックス

IMMポジション（投機筋）から見る為替相場見通し

仏大統領選以降、ユーロ米ドルポジションはロングへ転じている。焦点は再び米国、FOMCへ

IMMポジションとは

IMMポジションとは、米商品先物取引委員会（CFTC）が通貨毎の建玉明細を集計し、当該週の金曜日の取引終了後にHP上で公表しているものである。建玉明細の大口玉は報告義務があり、投機玉と商業玉に分かれ、市場は特に投機玉の建玉明細に注目する。

<ポイント>

ネットポジションがロングかショートかニュートラルかにより、投機筋の相場観が強気か弱気かニュートラルか推測できる。

直近の円、ユーロのポジション動向

米ドル円は米大統領選以降、トランプ大統領の政策期待への高まりを受けて、円ショートポジションが大きく積み上がる展開となり、米ドル円相場は一時118円台まで上昇。その後、トランプ政策への期待剥落、ロシア問題等により円ショートポジションは大幅に縮小し、米ドル円相場は一時108円台まで下落したものの、仏大統領選の結果を受けてリスクオンの展開となり、再び円ショートにポジションを傾ける動きが見られた。足元の米ドル円は一進一退の展開が続いている（図1）。

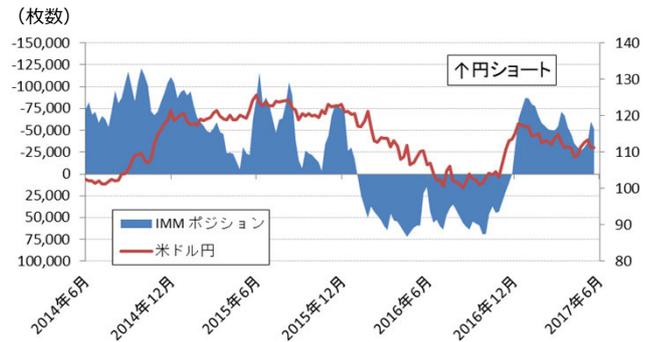
ユーロ米ドルのポジションはECB追加緩和への期待剥落から昨年末以降ユーロショートポジションを縮小させる動きが加速したものの、欧州選挙への警戒感からユーロドルの上昇幅は限定的であった。イベントリスクとして最も警戒されていた仏大統領選が市場予想通りの結果となると、ユーロ米ドルポジションはユーロロングへと転じ、ユーロ米ドル相場は1.12近辺まで上昇している（図2）。米ドルインデックスは米大統領選以降、節目となる100台へ乗せたものの、足元ではユーロ買いに押されるかたちで97近辺まで下落している（図3）。

欧州イベントは一服。焦点は再び米国、FOMCへ

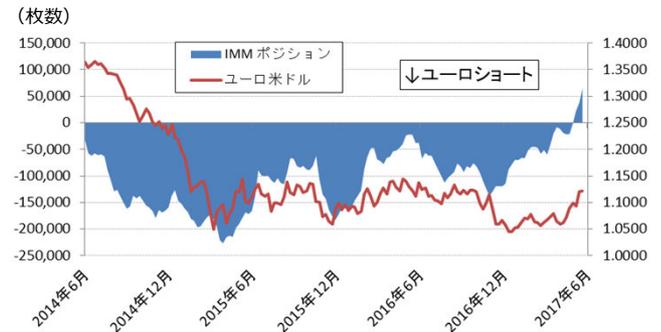
仏大統領選の結果を受けて市場はリスクオンへと傾いたものの、トランプ大統領のロシア問題が市場の重しとなっている。一方、5月のFOMCにおいてイエレンFRB議長は6月利上げに向けて意欲的な姿勢を示しており、政治リスクを抱えた状況下、利上げに踏み切れるかどうか目下の焦点となろう。欧州イベントは仏大統領選通過により一服感があり、ユーロの下値余地は限定的と言える。このような状況下、6月FOMCで利上げを見送るようなことがあれば、米ドル売りが加速する可能性がある。足元の米ドル円ポジションは円ショートに傾いているものの、今後のポジション動向に注目したい。

（市場営業部/浅川）

【図1】米ドル円（過去3年間）



【図2】ユーロ米ドル（過去3年間）



【図3】米ドルインデックス（過去3年間）



（出所 CFTC, Bloomberg）

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会